

「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」
第3回プロジェクト運営推進委員会 議事要旨

日時：2024年5月24日（金） 17時00分～

場所：Zoom オンライン（会議主管：大阪公立大学大学院看護学研究科）

出席者（敬称略）：

近畿大学	医学部	中川、林、福岡（和）、西尾、松尾、土井（啓）、高濱、吉田、谷崎、伊藤（彰）、竹上、津谷、田中（宏）、猪川、清水、森口、神田、荒牧、土井（教）、大目、辻井
近畿大学	理工学部	西郷（医学部兼務）、川下、木下、仲間、山田（英）
近畿大学	情報学部	半田、宮内
大阪公立大学	医学部	川口、渡邊、金田、藤田、福岡（美）
大阪公立大学	看護学部	田中（京）、林田、徳岡、小木曾、中野、田中（誠）
神戸大学	医学部	南、金原、山口、玉田、中邊
神戸大学	医学部保健学科	副島、山田（昌）
関西医科大学	医学部	伊藤（量）、加藤
兵庫医科大学	医学部	大村谷、府川、橋本、藤原、森下
近畿がん診療推進ネットワーク		早野

以上 54名

1) 2023年度活動成果評価委員会の報告について（近畿大学医学部 林秀敏先生）【資料1】

2024年3月5日に開催された活動成果評価委員会について、【資料1】に沿って報告された。

・全体の評点について

比較的高い点数がついている中で、各職種における専門認定資格取得状況や学位取得状況に関しては少し低い評価となっているが、1年目の評価のためこれからどうこの評価をあげていくかが大事である。

・TFごとの評点

比較的高い点数がついているが、一部3点台のものもあった。

・評価の高かった意見

一年目であり大学院の準備が整っていないにもかかわらず、入学者数の実績や論文発表、学会発表における数及び多様な分野からの発表などに対して評価が高かった。また計画になるがRIや分子病理など魅力的なプログラムの展開、海外との連携への期待、及び近畿大理工学部を中心に遺伝カウンセラー育成の実績を評価されている。

・改善が必要な点についての意見

放射線治療や病理医の入学者や人材養成、関西圏の他のプロジェクト（近大拠点以外）との連携、専門医取得者の増加、リハビリテーション・薬剤師の院生数の増加について意見があった。

看護師養成が大学・学部によって意識差がある。

→すべての大学で同じプログラムをするわけではなく、連携しながら看護師を育成していく。

HP/SNS での情報発信を積極的に行うべきであり、特に HP について改善を求められている。

→HP については現在近畿大学の事務局内で改善プロジェクトが進行中である。

義務教育の中での「がん教育」、また規制当局や企業の R&D なども含めた産官学での医薬品開発の体系的教育やセミナー開催などの意見があった。

・その他意見

E-learning について周知やフォロー、また共通特論の特性が失われないよう工夫するようにとの意見、SP 演習・多職種演習について参加者の増加の要望、また患者・患者家族といった当事者等のリソースの活用の検討。

また、神戸大学保健学研究科では専門看護師の育成コースは行っていないことを評価委員に周知する必要がある。

2) 2024 年度の予算について

(近畿大学医学部 林秀敏先生)【資料 2】

【資料 2】に沿って報告された。

今年度の予算配分については、基本的には昨年の配分（講座数、インテンシブコース数に合わせた配分）と同等。うち 5 大学共通部分は全体事務にかかる事務員の人件費が主なもので、近畿大学で管理。

執行できる経費としては資料 2 のとおり（科研費のような公的資金よりは使いやすいものとなっている。）

質疑・意見)

・e-learning の部分が今までと変わっているが、共通の事務費等で変更なしで問題ないか。(大阪公立大・看護 田中先生)

→e-learning に関しては今回システム確立させるというところで事務負担が発生しており、共通特論が減る部分はあるが、人件費全体的な物価の上昇も合わせるとだいたい同等という状況になる。(近畿大・医 林先生)

3) e-learning の進捗状況について

(近畿大学医学部 高濱隆幸先生)【資料 3】

【資料 3】に沿って報告された。

第 4 期より旧共通特論から「がんプロオンライン教育プラットフォーム」へ移行。

腫瘍学 I・腫瘍学 II 各 15 講義合計 30 講義で構成。今年度は初年度のため、阪神 5 大学作成分（11 講義）と過去のストックの流用（19 講義）で講義を構成。対象者は単位認定で必修となっている学生のほか、視聴を希望される教員や、既に共通特論を受講済の学生なども含まれる。今後教員・学生の洗い出し、リスト化を行い、各大学より筑波大学がんプロへ提出。6 月中に開始予定。

質疑・意見)

・1 講義当たりの時間配分はどうなっているか。(神戸大・医 南先生)

→筑波大がんプロの指針としては予習等の下調べと小テストの回答も含め、コンテンツは最低 60 分以上となっている。今回選定した講義はすべて 60 分を超えているため、講義プラ

ス予習・小テスト等で 90 分相当の講義を受講しているとして認定いただきたい。(近畿大・医 高濱先生)

- ・単位換算時の 1 コマとは予習時間を含まないのでは(大阪公立大・看護 田中先生)

→筑波大の指針ではそれを含んで 90 分コースとしている。大学ごとのポリシーによるところはあるが、解釈次第ではないかと思う。(近畿大・医 林先生、高濱先生)

4) 各大学・学部活動状況について【資料 4】

近畿大学	医学部	林秀敏先生
近畿大学	理工学部	西郷和真先生
近畿大学	情報学部	半田久志先生
大阪公立大学	医学部	金田裕靖先生
大阪公立大学	看護学部	田中京子先生
神戸大学	医学部	南博信先生
神戸大学	医学部保健学科	副島亮史先生
関西医科大学	医学部	伊藤量基先生
兵庫医科大学	医学部	大村谷昌樹先生

上記の先生方が【資料 4】に沿って、各学部の大学院コースの入学人数状況や今年度開催予定のセミナー等の案内について報告された。

質疑・意見)

- ・神戸大学のがんリハビリテーションインテンシブコースは盛況だが、Web 開催か(近畿大・医 林先生)

→もともとリハビリの先生が積極的で、実習を伴って市中のリハの先生が受講している。なお、今後は修士のコースとして開設することになる。(神戸大・医 南先生)

- ・学生獲得は評価の対象になるため、何か工夫していることがあれば情報が欲しい。ホームページを充実させることでまた違ってくるのでは(大阪公立大・看護 田中先生)

→ホームページについては今まであまり手をつけれていなかった部分であり、今後は全大学を広報できるようシラバスの掲載なども考えている。(近畿大・医 林先生)

→5 大学でやってるセミナーなどは全国がんプロ協議会のホームページも活用できる。(参加を募る意味でも)(大阪公立大・医 金田先生)

- ・評価委員会で大学間の連携が乏しいというコメントがあったが、各大学でセミナーをするときに、Web セミナーなどで座長を他の大学にするなど大学間の共催みたいな形をとれるのでは。(神戸大・医 南先生)

- ・関西における他の拠点との連携について、以前は近畿三拠点合同フォーラムを行っていたが、そういったことも今後検討していけばいいのでは。(大阪公立大・医 川口先生)

- ・がんプロ研究シンポジウムにおける他のがんプロの大学院生の方の研究発表の場であったり、がんリハビリテーション研究会でもグループの枠を超えた活動であったり、発表時に工夫してアピールしていければ。(近畿大・医 林先生、神戸大・医 南先生)

5) NPO 近畿がん診療推進ネットワークからの報告 (近畿大学医学部 中川和彦先生)【資料 5】

今年度の活動について【資料 5】に沿って報告された。

寄付・共催などの推移は右肩下がりになっており、今年度はできるだけ下がらないよう努力していく。ただし繰越金が5千万円ほどあるため、金銭的なサポートという役割は果たせると考えている。今年度の予定事業の案内、学術奨励賞選考会、英語論文校正費支援助成金の紹介があった。

質疑・意見)

・例えば近畿大の情報学のような新しい分野のセミナーなんかをぜひサポートいただきたい。

(近畿大・医 林先生)

→新しい分野では、製薬会社などの企業がどのような人材を欲しているかといった情報も含めサポートしていきたい。(近畿大・医 中川先生)

奨学金などはできないか。(大阪公立大・看護 田中先生)

→原資が企業からの寄附で成り立っているため、難しい。(近畿大・医 中川先生)

6) 各 TF の状況について【資料 6】

1. TF1 (医療現場)の進捗について (近畿大学医学部 高濱隆幸先生)

【資料 6-1】に沿って報告された。

TF1 にかかる正規コース及びインテンシブコースの目標人数に対する今年度入学者実績について報告があった。また、2024 年 10 月 12 日に開催される医療セミナーの案内や緩和ケア領域ワーキング、imNET 5 の開催報告があった。

2. TF2 (予防医療)の進捗について (大阪公立大学医学部 川口知哉先生)

【資料 6-2】に沿って報告された。

3/5 に開催された第 1 回ビックデータを用いたがん予防医療国際シンポジウム、3/15 に開催された次世代のがんプロフェッショナル養成セミナーの開催報告があった。また今年度の TF2 にかかる各大学のスケジュール、11/29 に開催される第 2 回ビックデータを用いたがん予防医療国際シンポジウムの開催案内があった。

3. TF3 (研究開発)の進捗について (神戸大学医学部 南博信先生)

【資料 6-3】に沿って報告された。

TF3 にかかる正規コース及びインテンシブコースの目標人数に対する今年度入学者実績について報告があった。また今年度の TF3 にかかる各大学のセミナー及び共同セミナーの開催案内があった。

7) その他

第 4 回プロジェクト運営推進委員会会議主管は関西医科大学医学部において行われることとなった。